

授業科目名	代表教員	コメント
比較文化論	関口 光春	できる限り学生と関心を共有して、現在につながる過去のそれぞれの文化にアプローチし、統一的な視点から各文化を比較し説明するよう心がけたい。
環境と芸術	山根 壽之	一般教養として日本の環境と芸術に関してグローバルな視野を持ち、客観的に判断できる基礎知識を吸収して欲しい。
英語 I B(表現中心)	成田 篤彦	① 単語や文法の基礎知識を確実なものにしてください。 ② 教室で扱った英文を、構文と意味を考えながら何度も声に出して読んでください。それが最も効率的な復習です。
英語 I B(表現中心)	磯野 達也	多くの英語を読み、聞いて、その内容を把握して、用いられている表現を使って英語で表現するための基礎力を身につけることを目標とした。重要表現だけでなく、重要な文法事項についても演習を行い、英文の構造に対する理解を高めることを意図し、ある程度は達成できたと考えている。
英語 I B(表現中心)	櫻井 裕子	学生は総じて熱心に授業に取り組み、教員の意図する活動がほぼ達成できた。
英語 I B(表現中心)	奥 聡一郎	課題が多いという指摘については小テストやプレゼンテーションの課題など無理のない頻度や量を考えて配分したいと考えています。また、質問の時間を十分にとり、授業の中でわからない点や学習内容を確認できる機会を作りたいと考えています。
英語 I B(表現中心)	森川 慎也	意欲的に英語学習に取り組む学生が多いので教える方も自然と身が入る。今後も学生の理解度を見極めつつ、彼らの英語学習を多角的にサポートしていきたい。より具体的には、明確な学習目標の設定、小テストの実施、基本文法の復習、きめ細かい解説や板書等によって学生の英語運用能力を高めていきたい。
英語 I B(表現中心)	奥 聡一郎	自己表現を英語とする機会を持ったことは大きな自信につながります。この機会を土台にさらに英語の学習方法を確立し、さらに高い英語力を身につけるように努力を続けてください。授業では質問の時間を十分にとり、語彙や文法事項の基礎力を確認できる時間を作りたいと思います。
英語 II B(表現中心)	磯野 達也	英語をなるべく早く、正確に読むとともに、テキストに示されている表現を使って、自ら英語で表現する力を伸ばすことを目標とした。それなりの量の英文を読むことはできたが、それに時間を費やしたためにリスニングの時間があまりとれず、また学生が英語を話す機会を十分に作る事ができなかった。今後は、英語を発するための時間の確保と方法の工夫をしていきたい。
地球環境論	小島 覚	環境という現代的に関心の高い問題を扱いつつも、大教室における大人数の授業なので、講義題目の主題に沿いながらも、なるべく受講生全体に興味のある題材や話題を選び講義内容とし、極力ビデオやパワーポイントによる解説を導入する。
社会福祉概論	松本 峰雄	集中して授業に取り組んでほしい。また、おしゃべりは他の学生に多大な迷惑をかけているので、自覚して出席するように。
国際関係論	荒 義尚	100名前後の大教室での教養科目のコミュニケーションは非常に困難であるが、種々工夫を重ねる他なし、と考えます。
スポーツ理論と実習 II B(芸・理)	野田 哲由	本授業に参加することで、学生がスポーツを楽しむ態度を身につけることができるような内容を今後も展開していく。また、単に身体を動かすだけでなく学生同士がお互いに良好なコミュニケーションをとれるように工夫する。

授業科目名	代表教員	コメント
ボランティア活動	西尾 雄志	このような授業改善プランは、学生の教育環境向上にとってきわめて意義深い。しかしプランを立てるだけでなく、具体的に改善していくことが不可欠であろう。それは担当教員の努力によって達成されるものもあれば、大学当局との協力なしには達成できないものもある。この点に関して、当局の協力をお願いしたい。
芸術表現ⅡB(書道)	細谷 恵志	必修科目でありながら意欲が4.34という数値であり、その結果、理解が4.32、向上が4.28という比較的高い値を示すことにつながったと考えられる。学習者の興味関心を高められるような指導方法を研究していかなければならない。
日本倫理思想	細谷 恵志	興味関心、意欲をもって授業に臨んでいる受講生は理解とも高く、そうでない受講生は理解度も低いという傾向が見られた。広く受講生の理解が得られるよう、資料の工夫し、理解が自覚できるような授業の展開を考えることとする。
スポーツ理論と実習ⅡC(看)	上岡 尚代	看護とスポーツ(運動)の関係を理解し、生涯スポーツを楽しみ健康・体力の維持に努められるよう、スポーツの楽しみを感じられる授業内容を心がけた。
書道史	細谷 恵志	数回の欠席があり、理解は4となっている。受講生が1名であったので学習者のペースに合わせて授業を展開した。
東アジアの美術	森 美根子	インド・西域・中国・朝鮮・台湾・日本の古代からの歴史と芸術文化について教授できる機会を得たことは自らの研究の糧になった。とりわけ激動の近代において東アジアの作家たちが如何に西洋絵画を受容し独自の絵画を創造したのか、その軌跡について学生と共に学ぶことができたのは意義深いことであった。
日本伝統工芸概論	正田 夏子	基礎学力の問題点はあるが発想は他大学にないユニークさがあり、毎回楽しみである。インターネットを普通に活用する世代なので「自国の文化を知らないことは大変まずいこと」と学生のほうが実感しているようだ。今後も自身の研究の研鑽を積む一方で、現代社会に役立つ幅広い知見と体験を盛り込んだ講義としたい。
色彩学	川村 眞兄	授業は「色彩検定」「カラーコーディネーター3級」試験を対象としているが、学生が関心を持っている授業項目を確認し、講義の重心を変えることも考えたい。
芸術療法概論	橋本 和幸	月曜日の1限という時間的な障害に負けない魅力ある授業にできるように心がけたい。また、芸術療法を理論の学習と実技の体験をバランス良く行えるようにしていきたい。さらに、今後も受講生からの質問には丁寧に回答していきたい。
書道指導法	藤瀬 礼子	技術に併せ理論を学べたという自由記述があったが、理屈と実践を繰り返す行なうことで、理解度を深めることが可能であると考えられる。毎時の授業が身に付くよう受講生個々の理解度に配慮して授業展開に努めたい。
基礎造形Ⅱ(書道)	藤瀬 礼子	受講生の学習意欲が高く、難易度を上げて努力し技術の向上ができた。草書の読み方を覚えることができた、書道実技のレベルアップにつながったなどの記述があり、積極的に取り組んだ結果が示されている。
法帖講読(書道)	細谷 恵志	意欲が5.0と非常にモチベーションが高く、そのため熱心に一心不乱に書き続けている学習態度であった。理解も4.75と高く、授業に取り組む姿勢と理解度は比例していることが分る。
応用造形Ⅱ(書道)	細谷 恵志	大方、高い数値をマークしているが、悩みを抱えなかなかやる気がでずいた学生がいた。学習内容を教授しマスターさせることはさることながら、学問や書道教育を通して人間的な交流を図りしっかりと指導していかなければならない。

授業科目名	代表教員	コメント
造形表現Ⅱ(書道)	細谷 恵志	意欲4.6、理解4.8、向上4.8と高い数値である。大作を作成したり、篆刻、刻字と精緻な技術を要したが、個々に熱心に取り組む姿が見られた。技術面のみならず資料にあたるなど理論的な面でも研究するよう指導していきたい。
人形アート	友永 詔三	身近にある材料で紙粘土作りから始め、自由な発想で楽しい人形制作をすることをテーマとする。
書	藤瀬 礼子	実用書の学習を中心に展開したが、後の生活にも生かせることを多く学んだので忘れずにしっかりと役立てたいという感想の記述があり、実際に生活の中で役立つ書が身につくよう今後も指導していきたいと考える。
運動学(理)	中村 浩	運動学は専門基礎科目として重要な科目であるので、学生の理解度を高めるために特に理解しなければならない項目を個別学習目標で具体的に設定した。これにより学習目標が明確となり、学生の基本事項に対する理解度が向上したと考える。
臨床運動学実習(2年)	盆子原 秀三	臨床という意味においては、学内でのカッコの穴埋めのような1つの答えを導き出す思考過程ではない。なるべくいろいろな角度から、現象を解釈できるように工夫をしたいと考えています。
日常生活活動学	加藤 宗規	授業内容を絞り、話す内容をまとめた資料を配布した状態で、ゆっくり、繰り返し伝えるようにしたため、理解は高かったと思われます。しかしその分、授業内容が狭く浅くなり、理解の高い学生達には物足りないものとなったかもしれません。
日常生活活動学実習	加藤 宗規	実技をデジカメなどで撮影することをしながら進めたため、自宅での復習時に理解が高かったと思います。さらに、レポートとしてまとめる課題も課したため、自宅学習時間は増え、従来より理解が高かったと思います。
応用運動療法学	盆子原 秀三	臨床という意味においては、学内でのカッコの穴埋めのような1つの答えを導き出す思考過程ではない。なるべくいろいろな角度から、現象を解釈できるように工夫をしたいと考えています。
神経系障害理学療法学	盆子原 秀三	なるべく障害の全体像がイメージしやすいように、実際の動画を通して伝えていきたいと考えている。
神経系障害理学療法学実習	盆子原 秀三	臨床場面での理学療法士の対応を動画により観察し、それを学生が行なってみる。このように実践に則した授業を構成することで即戦力を養えるよう努めていきたい。
運動学(整)	野田 哲由	医療関係に携わる柔道整復師、AT、トレーニングコーチ等として基礎・臨床医学の大切さを理解して、1年生で学習した「解剖学」「生理学」を復習してください。この知識がないと「運動学」が理解できません。
運動学特論	野田 哲由	医療関係に携わる柔道整復師、AT、トレーニングコーチ等として基礎・臨床医学の大切さを理解して、1年生で学習した「解剖学」「生理学」を復習してください。この知識がないと「運動学」が理解できません。
運動生理学	橋本 俊彦	今までに学んだ生理学を基礎として、実際の臨床を生理学的に考えられる様な思考を身につけることを目的とします。

授業科目名	代表教員	コメント
スポーツ医学	岡田 尚之	基礎的な内容(教科書レベル)に加えて、実際の現場での経験を伝えることが学生の興味を引くことにつながると考えています。全ての授業でそうとは限らないと思いますが、この授業はよかったですと思います。
スポーツ傷害論	橋本 俊彦	スポーツ活動は幅広い年齢層で行われており、対象は疾患を持つ者からアスリートまで多岐にわたる。スポーツ傷害論では、運動器のスポーツ外傷とスポーツ障害について、その原因、治療法、メディカルリハビリテーションからアスレチックリハビリテーションによるスポーツ復帰、予防などを中心に講義する。また、スポーツにおける運動学的論文を作成する。
コンディショニング論	上岡 尚代	対象者別のスポーツ指導について、その対象者を理解し指導の特徴、方法、注意点などについて学ぶ事が出来た。特に車椅子バスケットについて多くの学生が興味を持てたとの感想が得られた。
医療経営学	石丸 圭荘	公開により科目間の教育効果などを確認することができるので効果的である
整復ケア理論(軟損)	白石 聖	欠席日数が3回以上の学生は、自己評価での理解度が低いようです。積極的に授業に参加してください。
スポーツトレーニング各論	越田 専太郎	概ね学生の満足度は高かった。一方で、スライドなど視覚教材の改善を求めるコメントも若干数見られた。今後はパワーポイントによる視覚教材に加えて、紙媒体での資料を充実させることや、教科書、参考書を活用することで学生に十分な情報を提供したい。
整復ケア軟部組織損傷学Ⅱ	白石 聖	学生の自己評価による授業の理解度は、欠席日数が少ない学生ほど高い結果でした。欠席をしないように頑張って参加してください。
検査・測定と評価演習	上岡 尚代	基本情報、医学的情報、社会的情報、検査・測定結果から得られた情報を論理的に統合・解釈して問題点を抽出し、目標設定や治療プログラムの作成まで含めた一連の過程を学習した。グループワークを取り入れた事で、学生相互に考えを述べ、意見をまとめて発表することで論理的思考を学ぶ事が出来た。
応用後療学演習	上岡 尚代	本科目は、運動療法の基本的概念について学び、各種運動器の障害に対する運動療法の基本的技術を実技中心に学習した。教員によるデモンストレーションの後、2人組で実技を行い教員が教室を巡回し個別に指導を行った。少人数制でとても良い環境で授業が行えた。学生も積極的に授業に参加し、自由に質問できる環境であった。
マッスルケア	石丸 圭荘	公開により科目間の教育効果などを確認することができるので効果的である
東洋医療応用論	石丸 圭荘	公開により科目間の教育効果などを確認することができるので効果的である
スポーツコンディショニング論(実習含む)	岡田 隆	アンケートで指摘された、授業を行うトレーニング場が狭すぎる事、トレーニング器具が少なすぎる事に対して、学科単位で施設や器具の改善を検討していく。
アスレチックリハビリ(実習を含む)	岡田 隆	実技室では座学を受けにくいので、講義室と併用する。

授業科目名	代表教員	コメント
精神看護学概論	大迫 哲也	特に授業内容の理解度において、高い評価とそうでもない評価とに二分されていたように見受けました。テストも全般的に難しかったという反応が多かったと感じています。精神看護学に興味を持っていて人に対してだけでなく、余り興味を持っていない人にもその面白さが伝わる授業を工夫することが教員側の目標です。学生の立場からは、関心を向けて取り組んでいけば多少難しい内容があっても意欲的に学修を深められると思います。
地域看護学概論	川名 ヤヨ子	広い視野で看護を考えるために1年後期に看護専門領域に先立ち保健分野である地域看護学概論を開講した。熱心に受講した学生から視野が広がった、学習意欲が出た、興味を持った等の意見が聞かれた。
生理学Ⅱ(理)	増田 敦子	分からないことは、質問してください。オフィスアワー以外でも部屋にいれば対応します。復習には配布した問題だけでなく、教科書をしっかり読んでください。
生理学Ⅱ(整)	増田 敦子	分からないことは、質問してください。オフィスアワー以外でも部屋にいれば対応します。復習には配布した問題だけでなく、教科書をしっかり読んでください。
微生物学・免疫学	穂積 信道	免疫系は生体防御のためだけでなく、それ以上の機能を持って進化してきたと考えられる。さらに、我々も微生物とある共生関係を維持しながら進化してきた。講義ではこのような視点から免疫学と微生物学を講義した。さらに、最新のデータであっても医療に直接結びつく重要事項については講義した。
臨床検査概論	角田 純一	臨床検査の概略、基礎を出来るだけ解りやすく講義する工夫を続けます。
病態生理学(理)	増田 敦子	質問すること自体および質問内容について、恥ずかしがらず思い切って質問して欲しいと思います。
病態生理学(整)	増田 敦子	授業の最初に前回の授業内容の確認試験を行いました。半分しか出来ていませんでした。授業が終わったら、次の授業までには最低1回は復習をしましょう。知識を一步一步積み重ね、4年生から本格的に始まる国家試験対策に臨んで欲しいと思います。
内科学(理)	角田 純一	講義で配布する資料が解りにくいとの指摘がありましたので、本年度からは資料を改訂、変更しました。テキストの内容を確認しながら講義を進めます。
内科学(整)	角田 純一	配布する資料が解りにくいとの指摘がありましたので、資料を改訂、変更します。講義テキストを確認しながら、講義を進めます。理解を深めるために、記述式の試験に変更します。
整形外科Ⅰ(理)	橋本 俊彦	整形外科は運動器機能の回復を即する医学である。運動器には体幹、四肢を構成する脊椎、脊髄、骨、関節、軟骨、靭帯、筋、腱、末梢神経などが含まれ、運動器疾患は多岐に渡る。また、小児から高齢者まで幅広い年齢層が対象となり、疾患は慢性疾患と外傷に分類され幅広い医学知識が必要とされる。整形外科Ⅰでは整形外科の総論を中心に学び、リハビリテーションとの関わりを理解する。
整形外科Ⅰ(整)	岡田 尚之	学生の声の大きさのコメントがありましたので、声、マイクの確認や学生をできるだけ前に座らせたり、工夫をします。
救急法(理)	恵 秀彦	当該授業は、救急医療制度の一環としての初期救急の理解と人道的な見地から緊急時に必要な一次救命処置とその他の応急処置が躊躇なく行えるよう必要なスキルの習得を目標とした。教科内容はEBMIに基づく最新の国際ガイドラインに準拠した。多人数に対する実習法としてDVD上の指導者の手順を真似ながら同時に手技を行うマストレーニングの方法を基本とした。

授業科目名	代表教員	コメント
救急法(整)	恵 秀彦	当該授業は、救急医療制度の一環としての初期救急の理解と人道的な見地から緊急時に必要な一次救命処置とその他の応急処置が躊躇なく行えるよう必要なスキルの習得を目標とした。課題としてスポーツ障害につながりやすい外傷の応急処置の実習を増やすなどして継続的な関心の維持、更には生涯学習の場への変容を図りたい。
衛生学・公衆衛生学	木内 一佳志	講義内容を厳選・体系化し、より物語性を強めた講義を目指す。 国家試験対策では、知識・記憶すべき事項を逐一的に与えるのではなく、イメージから記憶と記憶の想起へと繋がるように工夫して与える。
教育心理学	橋本 和幸	教員採用試験の出題範囲を考慮した内容としながら、純粋に教育心理学という学問としても興味を持ってもらえるような授業にしたいと考えている。そのために、受講者からの要望や疑問点などを汲み取れるように工夫していこうと考えている。
書道科教育法	藤瀬 礼子	高等学校学習指導要領の芸術科書道に関する事項の暗記、理解から授業を始め、模擬授業を実践したが、受講生のモチベーションが高くよく努力して学習した姿勢が窺えた。総合して4.5という結果であったが、受講生の学習に対する興味関心がこうした結果につながったと考えられる。
学校カウンセリング	橋本 和幸	教員採用試験の出題範囲を考慮した内容としながら、純粋に学校カウンセリングという学問としても興味を持ってもらえるような授業にしたいと考えている。そのために、受講者からの要望や疑問点などを汲み取れるように工夫していこうと考えている。
スポーツ経営管理学	鈴木 美沙都	学生達の今の日常、そして今後社会に出たとき、この授業で学んだことが何らかの形で生かされてほしいという想いで、身近なスポーツ経営現象の事例を毎回取り上げて授業を構成しました。
漢文学	細谷 恵志	苦手な漢文であったがこの科目を通して勉強できてよかったという自由記述があったが、言葉のみだれが横行している現代に少しでも漢文の歯切れのよいリズムを講読の中から味わい、さらに授業以外にも漢文を読む機会をもってくるとよい。
情報教育メディア論	森田 和夫	講師は、学生の理解を深めるための工夫と努力を行っており、講義中に講師から意見を求められたときには、遠慮せずに積極的に発言して欲しい。自分の選択した科目については、興味関心を持つことが大切。講師は担当科目への関心を高め、理解を深めるための工夫や努力を惜しまない。